



イラスト：横浜市立大学 国際総合科学部2年 美術部所属 原田 安美

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 矢部 丈太郎

会員の皆様には、日ごろから後援会の活動に対しご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。後援会は、在学生の保護者から預かった会費等によって運営されており、学生の福利厚生を増進させ、より充実した学生生活を送ることができるよう様々な支援事業を行っております。最近には特に海外研修派遣への支援に力を入れており、毎年100名近い学生が海外へ出かけております。

さて、お子さまが志望する大学へ入ってほっとしたのも束の間、次なる心配事は就職のことではないかと思います。就活を始める学生は業種や企業を選ぶにあたり、親に相談することが多いと思います。広告などでよく目にする一部のブランド企業に就活が集中しがちですが、将来性のある優良企業はたくさんあります。本学の卒業生が多くいる会社を薦めるのも選択肢の一つだと思います。採用を効率的に行うため、選考に進む学生を大学名で絞り込む会社もあります。創立90年の歴史と伝統を誇る横浜市大の卒業生は、多くの業種・会社で活躍しています。最新版『役員四季報』（上場3708社）によれば、横浜市大出身の役員数は全国ランキングで55位、会社トップでは46位を占めています。役員の出身大学の学生であれば人事担当者が忖度してくれるかもしれません。学生ならびに保護者の皆様のご健勝を祈念しております。



学長挨拶

横浜市立大学 学長 窪田 吉信

矢部会長をはじめ横浜市立大学後援会の皆様方には、平素より、本学に対して大変ご支援をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちの横浜市立大学は、社会の急速な変化、特に国際化と多様化が進む中、英語による発信力や課題解決力、そして豊かな教養と専門性を備えた、グローバルに通用する人材を育成しています。また、先進的な研究と高度な診療を行い、その成果を社会的に還元するとともに「ヨコハマから世界」に発信しております。

本学は、「横浜と共に歩む」公立大学として、国際総合科学部、医学部（医学科・看護学科）と、本年4月からはデータサイエンス学部を新設し、現在、3学部5研究科の体制ですが、来年4月には、国際総合科学部を国際教養学部、国際商学部、理学部に再編し、5学部5研究科体制となります。

「ヨコハマから世界へ」のもと、より一層のグローバル化の推進と、大学の特徴を伸ばすことや、教育と研究、医療の質の更なる向上を目指しています。

本年度スタートしたデータサイエンス学部は、IT、IoT化が急速に進化する社会の中、横浜市のみならず国や産業界から注目を集めており、横浜市立大学の経営科学、理学、そして医学の質の向上にもつながろうとしています。

国際総合科学部の再編については、これまで横浜市立大学が培ってきた教養教育や英語教育の上に立って、それぞれの学部の専門性や特徴を出すことを意識してきました。また、在学生がより積極的に留学や海外研修ができるような支援体制の強化や、海外から多くの留学生を受け入れる環境を整えることなども、大きな重点目標となっています。

保護者の皆様方や卒業生をはじめとする後援会の皆様方には、これまで、学修活動やクラブ活動等への支援をはじめ、留学関係や就職関係の事業への支援等、幅広い御支援を賜ってまいりました。引き続き、学生生活の改善と、横浜市立大学のプレゼンス向上のため、より一層の御協力、御支援をよろしくお願い申し上げます。



学部長挨拶

国際総合科学部長（後援会副会長） 中條 祐介

後援会の皆様におかれましては、本学の教育にお力添えいただきまして、心より感謝申し上げます。今年度は、国際総合科学部722名（内、女子417名）、データサイエンス学部65名（同24名）、医学部医学科90名（同25名）、医学部看護学科100名（同96名）の新入生を迎え入れました。新たに会員となりました新入生の保護者の皆様には、本会の趣旨をご理解いただき、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

さて、今年度の横浜市立大学は、データサイエンス学部の開設により3学部体制となりました。さらに、平成31年度には国際総合科学部を国際教養学部、国際商学部、理学部の3学部にすることから、しばらくは国際総合科学部も含め、6学部体制となります。これにより、名実ともに総合大学としての陣容が整うことになります。

ここで、国際総合科学部再編の目的についてご説明しておきたいと思います。第1の目的は、学部で学べる内容をイメージしやすくするということです。受験生や進路指導の先生方、あるいは就職先となる企業の皆様から、かねてより国際総合科学部で学べるのがイメージしづらいとの指摘を受けておりました。それぞれの学びの内容を学部名とすることで、特に受験生に対して学びの内容をイメージしてもらえるようになるものと思います。第2の目的は、専門性の深化です。進歩の激しい今日において、自身の強みとなる専門性を磨くことは社会を生き抜く上でも不可欠だからです。

このように大きく変わる国際総合科学部ですが、継承するスピリットもあります。ひとつは教養教育であり、もうひとつは国際性です。教養教育では「問題発見・課題解決力」を柱にした社会を生き抜く力の涵養、国際性では「英語力」を基盤にした国際的視野の涵養です。これらふたつは本学学生が備えておくべき当然の資質として、これまで以上にその錬磨にエネルギーを注いでいく所存です。

今年度90周年を迎え、さらに100周年に向けて発展を続ける横浜市立大学に対するご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



「学びが深化する」

専門性を深める3学部 開設予定

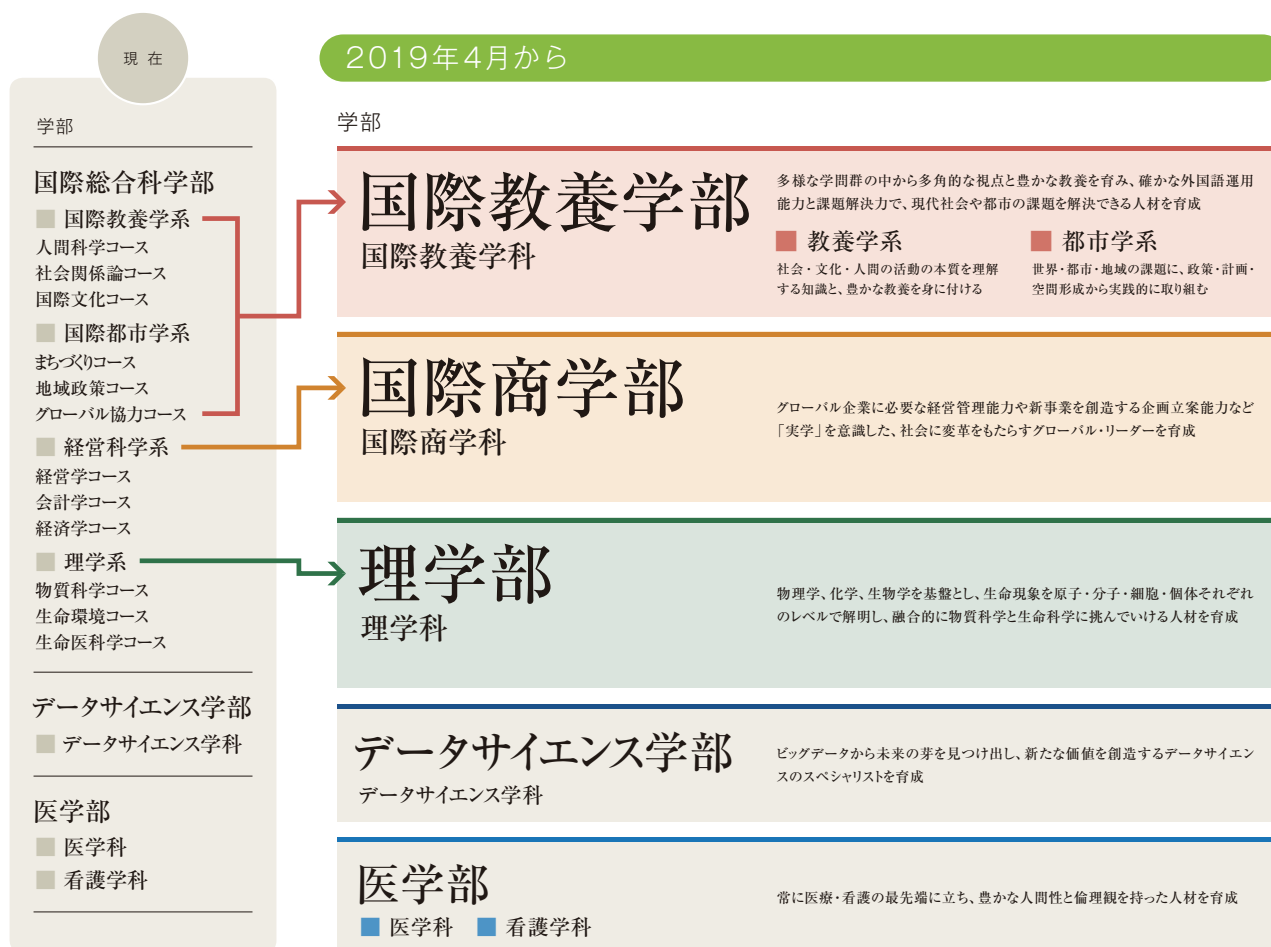
平成31年4月、国際教養学部、国際商学部、理学部へ。

平成17年の法人化とともに誕生した国際総合科学部では、文理融合型の教養教育をいち早く取り入れ、総合的な視点で課題解決力を養うことに注力してきました。その一方で、ますます複雑化・高度化する社会課題を解決するためには、専門知識の深掘りが必要とされ、この傾向は今後も加速度的に増していくと推測されます。学部再編の目的は、本学の強みである教養教育を土台にしながら、社会環境の変化に対峙できる専門性を深化させることです。

医学部と平成30年4月に新設したデータサイエンス学部に加え、国際総合科学部を国際教養学部、国際商学部、理学部の3学部にも再編することにより、5学部を備えた総合大学として時代の要請に応える教育体制を構築します。

再編のポイント

- ◆教養教育を土台とした専門性の深化
- ◆国際社会に対応するためのグローバル教育の強化
- ◆学部から大学院につながる体系的な学びの可視化



創立90周年記念式典報告

平成30年11月3日（土・祝）に金沢八景キャンパスにて、横浜市立大学創立90周年記念式典が挙行されました。式典には、林文子横浜市長をはじめ、市議員や横浜市関係者など、約100名のご来賓の方々と、卒業生や在学生、教職員や市民の方々などおよそ700名が参加。総勢800名以上の皆さまとともに、盛大に開催されました。



<学長メッセージ> YCUビジョン100

窪田学長は、これから訪れるこの100周年に向けて、長い年月大学の発展を見守り支援して下さった多くの方々への「感謝」を表し、学生・教職員が100年に一度の瞬間に「喜びを分かち合い」、横浜とともに歩む総合大学として「さらなる発展を決意する」機会にしたいと決意を表明しました。

「YCUビジョン100」として、下記の取り組む4つの重点事業と3つの記念事業プロジェクトを発表しました。

<4つの重点事業>

- 【教育】「ヨコハマから世界へ羽ばたく」グローバル人材の育成
- 【研究】「世界をリードする」研究成果の創出と市民への還元
- 【医療】「医療の知の創生・発信」附属病院の機能強化・再整備
- 【拠点】国際交流と知的資源を還元する拠点形成



<3つの記念事業プロジェクト>

【教育】

01



ビジネス人材育成・
留学支援プロジェクト

【研究】

02



新たな研究創生
プロジェクト

【拠点整備】

03



学生生活・環境改善
プロジェクト



この10年間で横浜市立大学が重点的に取り組む事項を重点事業として位置づけ、また、3つの記念事業プロジェクトでは寄附事業として、皆様のご支援、ご協力により学生教育や研究、環境整備を推進していきます。

最後に、「100周年に向けたこれからの10年間、本学を支えていただいたすべての方々への『感謝』のもと、次のさらなる未来に向けた発展のため、私どもは総力を挙げて邁進していく所存です」と決意を述べ、学長からのメッセージを結びました。

学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学生の学修・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約68万冊の図書、約1万4千タイトルの雑誌、約2万2千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土曜日も19時まで開館しており、多くの学生が学修・研究に取り組んでいます。センター内には400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学修に活用できるスペースを備え、学生の様々な学修スタイルをサポートしています。2018年3月には、アクティブラーニングを実践するスペースとして、Library Students Plazaを開設しました。また、2019年度からは、閉館後及び休館日の学修にも対応できるよう、新たに図書館外に自習スペースを設置します。

学修サポートの一環として、学術情報センター職員による学修・研究のアドバイス(レファレンスサービス)のほか、学術情報センターの活用法を身に付けた学生ライブラリストッフによる相談も受け付けています。学生ライブラリストッフは、新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組んでおり、学生の視点を取り入れ、学術情報センターをより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

また、卒業生利用制度を設けており、卒業後も図書館を利用することができます。

◇後援会からの図書寄贈

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境が一層、充実しています。

昨年度に引き続き有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただいています。「学生選書」による寄贈図書は4月と10月に企画展示も行い、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学修方法、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』や『R for Everyone』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学修・研究に大いに役立っています。



ゼミ活動

国際教養学系 国際文化コース 3年 安達 大介

昔から歴史、特に日本史が好きで、大学に入ったら歴史を学べるゼミに入ろう、と決めていました。ところが、いざ入学してみると、自分の浅はかさをまざまざと思い知らされることになりました。大学には、文学や社会学、心理学など、高校まででは学ぶことができない、面白い学問分野がたくさんあることを知ったからです。しかも、これらの学問は、いま現在の世界を綿密に分析する研究を中心としており、自分の身に還元されるものがとても多いこともわかりました。そのような並みいる学道の中で、微臭い過去のことにとこだわる必要が果してあるのか。そんな躊躇いが生じました。

しかし、私は現在、日本文化史ゼミに所属しています。結局、歴史学を研究する道を選んだわけですが、それは、歴史が必ずしも埃をかぶった昔のことであるだけでなく、現在を造り、そして未来を創る最も大きな基盤であることに気づいたからです。このことを心に留め、日本文化史ゼミでは過去そのもの、つまり文献(我々は「史料」と呼びます)の分析だけでなく、現在につながる部分にも注目して研究を進めています。

前置きが長くなりましたが、このような目的を携え、2017年12月、私たちは広島合宿を行いました。初日に尾道市、二日目に広島市を散策し、特に広島市では宮島と原爆関係施設を訪ねました。宮島は平安時代末期に権勢を誇った平家に関連する施設、原爆ドームは昭和前期に起こった戦争の惨禍を伝える遺跡で、時代は大きく異なるけれどもどちらも国内屈指の歴史遺産です。1000年以上前、あるいは80年近く前に、実際にそこに生きて生きていた人たちの名残を目にし、その空間に身を置いて、あらためて現在の自分が歴史の中に生きていることを実感しました。

宮島は593年に創建された。産業奨励館は1945年に原爆被害に遭った。このような事実は、観光案内などにも記され、ゆるぎない「歴史的事実」として認知されています。これらは、歴史学の努力によって導かれたものです。しかし、タイムマシンでも造らない限り過去のことを正確に知るのには不可能なのですから、こうした「事実」が正真正銘の事実であるかどうかは、導き出した歴史学自身が、常にチェックし続ける必要があります。つまり、これからの私たちが確かめ続けていくべき課題なのです。この課題をこなすためには、まず実地に赴き、実況見分を行わなければなりません。

今回の合宿では、自身の研究に関わる遺跡を見に、前日から隣の山口県に入ったゼミ生もいました。歴史学は足で行うものであるけれど、なかなか普段からそうすることは困難です。故に、このたびの御支援により今回のような合宿の機会を設けられたことについて、ゼミ生を代表して、謝意を表させていただきます。ありがとうございました。

歴史を、現在を、そして未来を学ぶため、日々学業を重ねていきます。ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



国内学会発表

生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士後期課程 2年 鈴木 凌

2017年9月21日から24日に岩手大学上田キャンパスで開催された日本物理学会2017年秋季大会において、「ロッキングカーブ測定によるタンパク質結晶の動力学的回折の観測」のタイトルで口頭発表を行いました。日本物理学会は自然科学分野の最高峰の学会であり、これまでもノーベル物理学賞受賞者を輩出している権威のある学会です。

今回の発表は物理学会の領域10:構造物性(誘電体、格子欠陥・ナノ構造、X線・粒子線、フォノン)という領域で講演を行いました。発表内容は、X線回折現象の一つである動力学的回折効果がタンパク質結晶において世界で初めて観測され、その詳細な解析に関するものです。動力学的回折効果はダイヤモンドや半導体シリコン結晶といったごく限られた極めて高品質な結晶でしか報告されておらず、そもそもタンパク質結晶における動力学的回折効果が起こるかどうか自体が長年の課題でした。本研究成果は世界トップレベル総合学術誌「PNAS」にも掲載されました。病気の原因解明や創薬に重要なタンパク質の結晶構造解析に対して、本研究成果は重要な知見を与え、今後さらなるタンパク質分子の構造解析の高精度化が期待されます。発表ではその解析手法の詳細や妥当性に関して、X線回折の専門家の先生方とディスカッションすることが出来ました。タンパク質結晶における動力学的回折効果の観測自体に驚愕される先生方も多く、さらなる研究のモチベーションに繋がっています。また、X線回折に関係する他の先生方の講演も拝聴し、興味の幅や視野の拡大を実感しています。

後援会からのご支援により、大変貴重な経験をすることが出来ました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外での様々な学びや実践の場を用意しています。後援会の支援を受け、海外で様々な体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

また本学では、平成30年度も、学生からの様々なニーズに応えるべく、交換留学を中心に新たにプログラムを増やしました。具体的には、ナバラ大学（スペイン）、オウル大学（フィンランド）等と交換留学プログラムを開始しました。

海外留学・研修プログラム		
	学生数 (予定)	プログラム名
語学研修 (英語)	2	ディーキン大学夏季語学研修 (オーストラリア)
	8	英国大学夏季語学研修 (サセックス大学、アングリア・ラスキン大学)
	15	サイモンフレイザー大学夏季語学研修 (カナダ)
	6	ダブリン・シティユニバーシティ夏季語学研修 (アイルランド)
	5	ブリティッシュ・コロンビア大学夏季語学研修 (カナダ)
	(5)	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 春季アカデミックスキル研修 (アメリカ)
	(6)	ダブリン・シティユニバーシティ春季語学研修 (アイルランド)
	(8)	ビクトリア大学春季語学研修 (カナダ)
語学研修 (中国語)	(4)	上海師範大学春季語学研修 (中国)
語学研修 (フランス語)	0	トゥーレーヌ語学院 (フランス)
語学研修 (スペイン語)	1	ナバラ大学夏季語学研修 (スペイン)
夏季講座	0	UCLA夏季講座 (アメリカ)
交換留学	2	上海師範大学 (中国)
	3	ウィーン大学 (オーストリア)
	1	仁川大学校 (韓国)
	1	タマサート大学 (タイ)
	5	ベネチア大学 (イタリア)
	3	リヨン第3大学 (フランス)
	1	マレーシア科学大学 (マレーシア)
	1	ゲーテ大学 (ドイツ)
	0	東海大学 (台湾)
	0	高麗大学 (世宗キャンパス)
	1	ナバラ大学 (スペイン)
	(2)	NEW! サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学
	(1)	NEW! アメリカス・プエブラ大学 (メキシコ)
	(2)	NEW! オウル大学 (フィンランド)
	(1)	NEW! チェンマイ大学 (タイ)
長期派遣	3	ブリッジプログラム
	3	セメスター留学
	7	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム		
所属	参加 学生数	主な渡航先
アカデミックコンソーシアム (まちづくりユニット)	14	仁川 (韓国)
アカデミックコンソーシアム (持続可能な都市づくり共通教育プログラム(SUDP))	21	ロスバニョス、マニラ (フィリピン)

海外フィールドワーク支援プログラム		
所属	参加学生数 (予定)	主な渡航先
共通教養	15	中国 (西安、北京)
	(15)	シンガポール (ジュロン)
社会関係論コース	10	フィンランド (ヘルシンキ)
	(15)	ドイツ (ベルリン)、 ポーランド (クラクフ、オシフィエンチム)
国際文化コース	6	イギリス(ロンドン、エディンバラ、オックスフォード)
	7	スコットランド (エディンバラ、スターリン)
	(14)	フランス (パリ、リヨン、シャトル)
地域政策コース	(11)	スウェーデン (ウプサラ、ストックホルム)、 ラトビア (リガ)
グローバル協力 コース	(10)	南アフリカ (ヨハネスブルグ、リロングウェ、 ゾンバ、ブランタイア)
	(20)	スイス (ジュネーブ)
	(22)	カンボジア (プノンペン、シェムリアップ)
経営学コース	14	タイ (チェンマイ、バンコク、アユタヤ)
	24	アメリカ (ニューヨーク)
	(13)	フィリピン (セブ)
会計学コース	18	タイ (プーケット)
看護学科	18	フィリピン (イロイロ、マニラ)
物質システム科学専攻	16	イタリア (ベネチア、パレルモ)
生命医科学専攻	10	イギリス (オックスフォード)

海外インターンシップ		
○春季 (H30. 2～3月)		
国・都市名	参加学生数	派遣先企業
オーストラリア・メルボルン	1	Discover English
シンガポール	1	Novotel Singapore
インド・プネ	1	Fidel Softech
インド・プネ	1	Door Step School
韓国・ソウル	1	ベストフレンド韓国語学校
○夏季 (H30. 8～9月)		
国・都市名	参加学生数	派遣先企業
アメリカ・ロサンゼルス	1	Eleven Arts, Inc
アメリカ・ロサンゼルス	1	PSW Inc. dba Taste Nirvana Int'l, Inc
オーストラリア・メルボルン	1	Fairhills High School / Box Hill Primary School
オーストラリア・シドニー	1	Konica Minolta Business Solutions Australia
インド・プネ	1	Adiwasi Vikas Probhodini / Door Step School
ベトナム・ハノイ	1	MINA日本語センター
ベトナム・ホーチミン	2	PGT Holdings
中国・上海	3	上海良図商務諮詢有限公司
韓国・ソウル	2	ベストフレンド韓国語学校
韓国・ソウル	1	韓日社会文化フォーラム

国際ボランティア	
<p>長期休業期間に、世界約30か国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができます。このプログラムは、TOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会 (CIEE) が提供しています。</p>	
H30 (夏) 派遣国実績	ドイツ、アイスランド、スペイン、 アメリカ、ベトナム、カンボジア

海外留学・研修プログラム

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

国際都市学系 まちづくりコース 3年 岡本 姫佳



本プログラム参加当初は、周囲の目を気にしすぎて積極性が足りない上に実力不足で、何度も悔しい失敗を繰り返し、本当に5ヶ月間のインターンシップを最後まで全うできるのか、不安でいっぱいでした。しかし時間が経つにつれ、ゲストの思い出の一部になれたときの「喜び」やチームで仕事をこなしていく「やりがい」を知り、気がつけば当初はゼロに近かった自信を携え、キャストの一員としてゲストや仲間との時間を楽しんでいました。現在まちづくりコースで様々な地域の課題解決について学んでいますが、人間の豊かな暮らしには思い出になるような出来事や人と人の繋がりが必要なのだと改めて考えさせられ、この経験を積極的に授業でもアイデアとして反映していきます。どんな挑戦にも負けない自信と素晴らしい経験を得られた本プログラムに参加できて、本当に良かったです。この度のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

ナバラ大学(スペイン) 夏季語学研修

国際教養学系 1年 河上 桃子

私は今まで海外に行ったことがなく、海外にでて自分の語学力を試してみたいと思っていました。また、スペイン語やスペインの文化に興味があったのでこのプログラムに参加しました。ナバラ大学でのスペイン語の授業は、スペイン語以外使ってはいけないというのが前提で進められ、文法などは英語で説明されるため、授業についていくのは想像以上に大変でした。しかし、分からないことは自分から聞くなど、受け身ではなく、主体的に学ぶことの大切さを学びました。

寮の友人との会話は英語だったので、英語力も鍛えられました。日々の会話やメールで使われる、生きた英語に触れるのは初めてだったので、とても良い経験になりました。

そして、寮の友人、先生などたくさんの人との出会いは、自分が本当にやりたいことは何かについて改めて考えさせられるきっかけにもなったと思います。語学力だけでなく、これから大学生活を送る上で大切なことを多く学ばせて頂き、私にとって、大変貴重な2週間となりました。

ご支援して頂いた後援会の皆様、大学関係者の皆様には深く感謝しています。本当にありがとうございました。



仁川大学校交換留学プログラム

国際都市学系 グローバル協力コース 4年 金 娥蘭

近くて遠い韓国を近くて近い国に！

私は、日本と今後隣国としてより重要な存在となる韓国に留学をし、「近くて遠い国」といわれる韓国との関係を「近くて近い国」として、今後日韓がより協力し合える関係を築くための架け橋として活躍したいと考え、韓国への留学を決心しました。

留学での成果は大きく分けて3つあります。それは、①韓国人学生と共同生活をする事で韓国人の生活や国民性に触れることができたこと、②韓国語を「活用」する場面が多く、韓国語能力が飛躍したこと、③日本の良さを客観的に知ることができたことです。仁川大学校には日本、世界各地から留学生が交換留学で来ていましたが、横浜市立大学の学生は韓国人学生との部屋割りになっていたりと、大学の中でもレベルの高い学部配属されたり、学びの場が広く設けられており、交換留学ならではの良い環境で留学をすることができました。今後は、この経験を活かして社会で活躍したいと思います。留学にあたりご支援いただき誠にありがとうございました。



海外フィールドワーク支援プログラム

タイでのフィールドワーク

経営科学系 経営学コース 2年 矢口 彩音



ゼミで専攻している経営組織論の観点から東南アジアでの日系企業の活動を理解すること、海外の学生と異文化交流を行うことを主な目的として、タイ王国に渡航し、日系企業2社とチェンマイ大学を訪問しました。日系企業訪問では、現地での組織マネジメントや、日系企業の東南アジアでのビジネスの在り方について学びました。また、「日本人が海外で働くこと」について駐在員の方々のお話を聞くことで、自身のキャリア・デザインについて考える良い機会になりました。チェンマイ大学訪問では、大学生活についての英語での発表や、チェンマイでのフィールド調査をすることで、日本とタイとの文化の違いのおもしろさに触れることができました。また、異文化間で意思疎通を図るために英語は欠かせないツールであることを再確認し、英語の学習をより一層頑張ろうと思いました。このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

海外インターンシップ

実習先：PGT Holdings Joint Stock Company (ベトナム・ホーチミン) 国際教養学系 社会関係論コース 3年 榎林 諭美



今回の海外インターンシップは私を大きく成長させてくれたと改めて感じます。私はタクシー事業やホテル事業、人材事業などあらゆる分野に事業展開しているベトナムで上場している日系企業で実習をしました。主に日本人学校の運営を担当し、授業カリキュラムの作成や制度の考案、書類の作成を行い、ときには実際に日本語の授業をすることもありました。

海外で働く上で大変なことの一つに、何をすべきかを教えてもらえない点が挙げられると思います。そのような状況で学んだことは、主体的に行動することの大切さと、ゴールを最初に決め、そこから逆算して計画を立てることの重要性です。インターンシップでどこまでやり遂げるか。私はこれを最初に考え、学校がいよいよ運営できるところまで業務を遂行することが出来ました。どこを取っても非常に充実したものだと感じます。これから就職活動が本格化しますが、今回の経験で学んだことを活かして困難な状況でも目標を持って努力を続け、残りの学生生活を後悔の無いものにしたいと思います。

最後に、このような貴重な経験を支援してくださった後援会の皆様に、心より感謝申し上げます。

国際ボランティア

派遣国：アイスランド

理学系 生命環境コース 2年 小松 伸栄瑠

私はアウトドアが好きで、週末は山に登ったりしています。いつの日か海外の山に登りたいなと思っていました。さらに、山登りなどのアウトドアから環境保全の活動にも参加してみたいという気持ちがありました。そんな中、国際ボランティアを知りました。そこで私は、アイスランド東部の町で環境保全のボランティアに参加することを決め、活動を行ってきました。アイスランドでは主に海岸線の不要となったフェンスの撤去や町の道路沿いに落ちているゴミ拾いなどの活動に従事してきました。ボランティア活動の後には、近くの山へハイキングに出かけたり、温泉に出かけたりしました。また、このボランティア活動に参加したメンバーと夕食を一緒に作るなどして充実した日々をおくることが出来ました。この活動を通じて、環境保全に対する意識が高まっただけでなく、様々な価値観や文化の違いなどを知ることが出来ました。後援会の皆様、この度のご支援心より御礼申し上げます。



アカデミックコンソーシアム

2018年9月11日(火)、12(水)に、アカデミックコンソーシアム*の総会および国際シンポジウムがフィリピン大学の主催でマニラにて開催されました。都市環境と健康を全体のテーマとしたシンポジウムでは、本学をはじめとしたメンバー大学から多くの研究者が参加し、学術交流を深めました。また、開催に先駆け、学生参加の短期プログラムが2つ実施され(まちづくりユニット国際ワークショップ、持続可能な都市づくり共通プログラム)、合計35名の本学学生が、フィリピン、タイ、マレーシア、韓国、ベトナムの学生たちと多国籍での交流を行いました。後援会のご支援のもと、毎年、多くの学生が海外で学ぶ機会を得ております。心より御礼申し上げます。



*アカデミックコンソーシアムは、横浜市立大学が事務局を務める都市の課題解決を目的とした大学間ネットワークで、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、インドネシアの大学が参加しています。

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上を期待して設置しています。

平成30年度は9月28日（金）に八景キャンパスシーガルホールにおいて、伊藤雅俊奨学生及び成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

式典では奨学生・特待生への表彰状及び目録の授与以外に代表学生による学習成果の発表を行いました。また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催し、学生・教員・保護者が親睦を深める良い機会となりました。



YCU Best Student Award・YCU Student Award

本学の名誉を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生及び団体に対し、「YCU Best Student Award・YCU Student Award」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献、スポーツ及び文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは受賞者に副賞をお渡ししています。

平成29年は英科学誌「Scientific Reports」や国際誌「Annals of Pharmacology and Pharmaceutics」に論文が掲載された生命医科学研究科 博士後期課程 生命医科学専攻 3年（受賞当時）廣川智子さんと、2017年度日本植物細胞分子生物学会で学生奨励賞を受賞し、国際誌「Plant and Cell Physiology」に論文が掲載された生命ナノシステム科学研究科 博士後期課程 生命環境システム科学専攻 2年（受賞当時）三上雅史さんがYCU Best Student Awardを受賞されました。

YCU Student Awardには個人の部として、国際誌「Molecular Cell」に研究成果を発表した石山怜さん（生命医科学研究科）、第8回国際人道法模擬裁判国内予選大会で最優秀弁論賞を受賞した青山優子さん（国際総合科学部）、第66回関東甲信越大学体育大会の剣道男子個人戦で優勝した伊佐津周平さん（国際総合科学部）の3名が受賞されました。

また、団体の部では、第50回アジア開発銀行年次総会の次世代教育セミナーでユース代表プレゼン・総裁提案を行った芦澤美智子ゼミナール、関東学生ホッケー秋季リーグで1部昇格を果たした女子グランドホッケー部、第60回東日本医科学学生総合体育大会テニス競技で団体優勝し3連覇した医学部女子硬式庭球部の3団体が受賞されました。



（写真上はYCU Best Student Award受賞者、
下はYCU Student Award受賞者）

保護者説明会



在学生保護者説明会を各キャンパス及び地方会場（兵庫県神戸、石川県金沢）で開催しました。開催にあたり後援会からは、地方会場の開催を含めたすべての運営費等を助成いただきました。

保護者の皆様方に本学の教育・研究・学生支援等の取組みや学生のキャンパスライフについてご理解いただくことを目的に開始した保護者説明会も、今年で7年目となりました。今年度は、在学生や卒業生から自らの体験談を語ってもらう企画を多くし、本学の様々な魅力をお伝えしましたが、ご参加いただいた皆様から大変好評をいただくことが出来ました。また、例年通り金沢八景キャンパスでは同日に後援会総会

も開催し、保護者説明会と後援会総会を一体的に行う事を念頭に、保護者説明会の開始時間を調整した結果、多くの方に後援会総会にご参加いただけました。今後も後援会のご支援をいただきながら、更にご満足いただける運営をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

卒業生送別祝賀会



平成29年度は、国際総合科学部687名、金沢八景キャンパス大学院126名がそれぞれ卒業・修了しました。学位記授与式後の祝賀会は6つの会場に分かれ、大変賑やかに開催されました。

例年、金沢八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、学部ではコース、大学院では専攻に分かれて学位記の授与式を行っております。後援会の助成により、学内の会場における祝賀会を実施しています。

国際総合科学部専任教員・非常勤講師懇談会

専任教員及び平成30年度非常勤講師予定者を対象とした「国際総合科学部FD・SD研修会」が平成30年3月13日に「GPAと授業評価アンケートの分析について」をテーマとして実施され、教職員計44名の参加がありました。

はじめに、国際総合科学部経営科学系会計学コース長*の黒木淳准教授より、平均GPAの分布について説明があり、教養ゼミ、基礎ゼミ、非常勤講師担当科目について、科目ごとのGPAと授業評価アンケートにおける回答結果が示されました。

その後、授業評価アンケートの分析として、GPAと学習時間の関係、開始時刻の関係、到達目標との関連性について説明がありました。

非常勤講師の先生方向けの研修会実施により、これまであまり情報提供できていなかったGPA分布の報告を行うとともに、並行科目の成績基準をそろえる取組にご協力頂きたいことや次年度に向けた注意事項を直接共有することができ、顔の見える関係づくりを行うことができました。

また、FD・SD研修会終了後は後援会の助成により懇親会を開催し、30名の教職員の参加があり、親睦を深めました。毎年後援会よりご支援いただくことで、授業以外における課題や要望等を聴取し、本学の学部教育のさらなる改善に役立てることができ、大変有意義な機会となっています。

*平成30年3月時点での肩書きです。

経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。また、日本学生支援機構や給付型の各種団体奨学金の案内、手続きのサポートも行っています。

各種制度の申請募集は基本的に年1回ですが、年度の途中で家計が急変した方に対しては、緊急応急対応型授業料減免制度等により、通年で支援を行っています。

第 68 回浜大祭

普段より私たち浜大祭実行委員会に対する皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。後援会の皆様のご多大なるご支援のお陰で、第68回浜大祭は11月3日(土)と4日(日)の2日間、金沢八景キャンパスにおいて多くの方々にご来場いただき、無事に開催することができました。誠にありがとうございました。

今年の浜大祭のテーマは“funtagic!”です。この言葉には、幻想や空想を意味する“fantasy”に、魔法や魅力といった意味の“magic”と楽しみなどの意味を持つ“fun”の3つの言葉がかけられています。これまで浜大祭にご協力いただいた多くの方々を含め、ご来場いただいたすべての方々に感謝の気持ちを込めて、校門のアーチをくぐった瞬間から、幻想的で魔法にかかったような楽しいひとときを提供したいという想いを込めました。今年から2日間開催となった浜大祭ですが、例年の土日の来場者数を上回る多くの方々にご来場いただきました。

今年も学生や地域の方々の交流の場となり、たくさんの笑顔があふれる学園祭となりました。



浜大祭 実行委員長 伊藤 紫乃

第 67 回関東甲信越大学体育大会

平成30年8月15日(水)～9月2日(日)にかけて、関東甲信越地区の国公立大学13校から約3,500名が参加する総合体育大会である、「第67回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。今年度は長岡技術科学大学が主管校を務め、信州大学、新潟大学を含めた3校が当番校となり運営を行いました。今大会では、本学から13団体203名が参加し、サッカー部が3位入賞、陸上部が個人戦9種目で入賞し、そのうち3種目で優勝を果たすなど、日頃の練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい成績を収めることができました。

今回、競技会場が新潟や長野といった遠方であったため、後援会からの補助金を選手の遠征・宿泊費等に充てさせていただいております。毎年頂いている運動部連合会に対する援助により、こうした活動を円滑に行うことができています。お力添えに心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



運動部連合会 関東甲信越大学体育大会担当 望月 みのり

クラブ活動

■ウィンドサーフィン部

私たちは、横須賀市にある津久井浜を拠点に活動しています。ウィンドサーフィンとは、風の力を使い、海上を縦横無尽に駆け回ることが出来るスポーツです。最高速度は約40km/hとその爽快感が魅力で、この道具を操り、レースに出ることが私たちの活動です。レースはセーリング競技に分類されますが、セーリング競技は「海上のチェス」とも言われ、勝つためには、選手の体力や技術に加え、刻一刻と変化する風向や風速、他艇の動きを読む能力など、知的な要素も必須です。純粋な道具を操る楽しさがある一方、体力・頭脳をフルに使うシビアな面もあるスポーツですが、その中で少しでも良い成績が残せるよう、日々練習を重ねています。

今年度は、上級生7名中、3名が全日本インカレ(沖縄)出場、2名が全日本選手権(江ノ島)出場を果たすことができました。これら大会の遠征費等に、後援会からの補助金を充てさせて頂いており、非常に感謝しております。海が身近な市大ならではの部活動のひとつとして、今後も魅力ある活動を続けて参りますので、変わらぬご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



ウィンドサーフィン部 主将 片岡 涼祐

■水泳部

私たち水泳部は、火水金7:50～、月木16:15～、土7:50～及び、13:00～総合体育館地下1階プールで自己記録更新を目標に練習しています。

今年度は日本学生選手権に1名、全国国公立選手権にも多数の選手が出場しました。また地方大会では多数の選手が決勝に進出し、大学から始めた初心者も入賞を果たし、チーム一丸となって戦い抜くことが出来ました。現在は既に来年に向け始動しております。

本年は遠征に数多く行かせて頂きその旅費を後援会より支援して頂きました。そのおかげでこのような成績を収められたこと、部員一同大変感謝しております。これからも皆様のご期待に添えるよう日々努力してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



水泳部 主将 吾郷 遼

■料理部

私たち料理部は毎月の料理会の他にいくつかのイベントにて活動を行っております。浜大祭では、企画の一つの「FOODBATTLE」に参戦、現在まで5連覇を達成しており、今年は6連覇を目指し商品開発や日々の試作会に励んでおります。

今年度の大きな取組みとして、9月に行われた横浜シーサイドトライアスロン大会にて横浜産わかめをPRするための出店ボランティアをしました。わかめスープのレシピを考案し、さらにそれを参加賞として約800名の参加者の方々へ提供をしました。800食を提供することは料理部としても初めての試みであったので、うまくいくか不安ではありましたが部員全員で協力し成功させることができました。これを機に他のボランティア活動にも参加し、活動の幅を広げていきたいです。

今年で創立6年目というまだまだ歴史の浅い私たちですが、このような充実した活動を行えているのは、ひとえに後援会の皆様のご支援・ご協力のおかげです。部員一同、心より感謝申し上げます。これからもご支援の程どうぞよろしくお願い致します。



料理部 部長 久木 紅奈

■美術部

美術部代表の私が言うのも妙ですが、「美術」とは本当に訳の判らないものです。

私の美術に対するイメージは、額に入り絞られた照明の下で誰か見に来てくれるのを待っているそこそこデッサンの整ったサムシング、というものでした。ところが大学に入り、美術部を覗いて見るとどうでしょう。油絵なんて美術チックなものをやっているのはごく少数で、大抵の人は本当に好き勝手に、かつ楽しそうに作品を作っていました。作品を作る、つまり、何かしら自分の中にあるものを、目に見える形で表現することが「美術」であるのだと知りました。

つまり、美術とは実に独り善がりなものなのです。ただ、美術も一から十まで独善的なわけではありません。去年は学外の団体と協力して、横浜を世界に紹介する紙芝居を作成し、今年度は大学主催の市民向け講座、「エクステンション講座」表紙デザインを担当させて頂きました。実は本冊子の表紙も美術部員によるものです。

もっともっと外に還元できる活動もしていければと考えております。ご支援の程よろしくお願いいたします。



美術部 部長 安達 大介

キャリア支援センターでは、在学生一人ひとりの夢の実現をサポートするため、様々なキャリア・就職支援を行っています。例えば、キャリア・進路に関する相談、求人情報・OBOG情報等の公開はもちろん、毎年200社以上の企業が学内に集まって説明会を実施する合同企業セミナー、卒業生との交流会の運営など、YCUならではのイベントも多く開催しています。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・進路相談	専門のキャリア・コンサルタントを配置し、マンツーマンで相談に応じています。学部1年次より利用可能で、希望する進路や将来のキャリア像にあわせて学生の自立をサポートしていきます。また、エントリーシート添削・模擬面接など、就職活動の具体的なアドバイスも行います。	
各種イベント	1年を通して様々な就職・キャリアに関するイベントを開催しています。就活年次生向けの就職対策講座はもちろん、低学年向けの就職ガイダンスや公務員講座（有料）、理系学生向けの進路ガイダンス、留学出発前・帰国後の学生のための就職セミナーなど、学生の多様なニーズにあわせたイベントを実施しています。	
キャリア形成実習（キャリアデザイン）	主に学部の1年生を対象に、仕事や就職だけでなく、より広い視野で主体的にこれからのキャリアについて考えることを目的とした正課科目です。OBOGをゲストスピーカーとして招き、学生時代の経験が社会に出てどのように活かされているか、社会に出るとはどういうことか、といったことをお話いただく機会も設けています。	
インターンシップ	民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験をする場を提供しています。海外インターンシップでは、学生の海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。 *学部1年次後期以降対象 海外インターンシップについては、6ページ、8ページをご参照ください。	
キャリアサポーター制度	卒業生がキャリアサポーターとして在学生のキャリア・就職支援を行う制度です。現在、キャリアサポーターは2,700名以上の登録があり、在学生はキャリア支援センターでサポーター情報を検索し、直接コンタクトをとることができるほか、年に1回開催される「キャリアサポーターと学生の集い」と題した交流会を通して、仕事のやりがいや就活のアドバイスを聞くことができます。 *キャリアサポーターと学生の集いの開催費用は後援会より助成いただいています。	
キャリアメンター制度	就職活動を終えた学部4年生／修士2年生（メンター）が自己の経験をもとに、後輩（学部3年生／修士1年生）に対して相談に応じたり、助言をしたりする制度です。学生同士の交流を目的として、年に1度開催している「内定者と就活生の集い」の開催費用を後援会より助成いただいています。	
書籍の貸出し	業界・職種研究や筆記試験、面接対策など就職活動に役立つ書籍のほか、キャリア全般に関する書籍、ビジネス誌等を学生に貸出ししています。書籍の購入費用は一部、後援会より助成いただいています。	
就職支援パートナーシップ制度	首都圏以外の各地方で就職を希望する学生を支援するため、Uターン・Iターン就職希望地域の協定大学（下記12大学）で求人情報閲覧や就職相談、合同企業説明会への参加等が可能となる制度です。国際教養大学、福井県立大学、信州大学、都留文科大学、首都大学東京、山梨大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学	

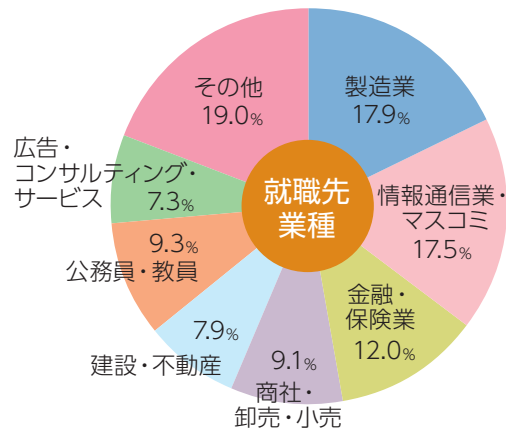
入学から卒業までの流れ

学年	1年	2年	3年	4年
支援内容	新入生オリエンテーション	2年生向けオリエンテーション	3年生向けオリエンテーション	
	キャリア形成実習（キャリアデザイン）			
		キャリア・進路相談		
		キャリア支援イベント		
		国内・海外インターンシップ		
			公務員講座	
			就職ガイダンス・合同企業セミナー	
			キャリアメンター制度	
			キャリアサポーターとの集い	
		OB・OG訪問（キャリアサポーター制度）		
		書籍貸出し		
		就職支援パートナーシップ制度		

卒業生進路

卒業後の進路は就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得など様々です。国際教養学系、国際都市学系、経営科学系の文系の学生は80%以上が就職を希望し、理学系では約6割の学生が進学しています。直近の平成29年度国際総合科学部卒業生全体の就職率は98.9%と、全国平均を0.9ポイント上回る数値となりました。グローバルに事業展開する民間企業のほか、横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多くおり、就職後の状況は各企業から高い評価をいただいております。

■平成29年度国際総合科学部 卒業生業種別就職先
(平成30年5月1日現在)

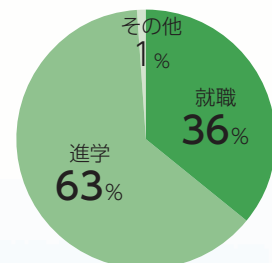
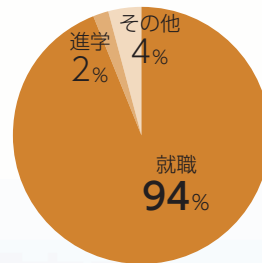
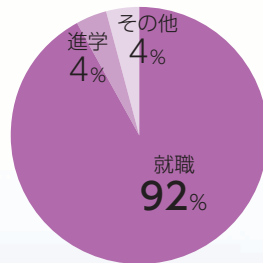
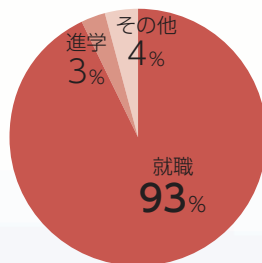


■平成29年度国際総合科学部 卒業生進路状況 (平成30年5月1日現在)

※就職率=就職者数÷就職希望者数

国際教養学系				国際都市学系				経営科学系				理学系			
就職率	98.6%			就職率	100%			就職率	98.4%			就職率	100%		
進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他
合計	144	4	7	合計	116	5	5	合計	249	5	12	合計	50	88	2

[進路内訳]



■平成29年度国際総合科学部 卒業生の主な就職先・進学先

国際教養学系

■製造業

小野薬品工業株式会社
オリンパス株式会社
株式会社島津製作所
セイコーウオッチ株式会社
日産自動車株式会社
日清製粉株式会社
マックス株式会社
株式会社LIXIL
株式会社ロッテ
■金融・保険業
AIGグループ
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
岡三証券株式会社
オリックス生命保険株式会社
みずほフィナンシャルグループ
明治安田生命保険相互会社

株式会社ゆうちょ銀行
横浜信用金庫
■建設・不動産
東急ファシリティサービス株式会社
ミサワホームインテグリティ株式会社
三井不動産リアルティ株式会社
■広告・コンサルティング・専門サービス
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)
総合警備保障株式会社
社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)
株式会社リクルートキャリア
■公務員・教員
小田原市役所
神奈川県教育委員会
警視庁
相模原市役所
人事院

東京国税局
東京都特別区
栃木県
横浜市役所
■商社・卸売・小売
ENEOSグループ株式会社
株式会社サンゲツ
JFE商事株式会社
株式会社ジャパネットたかた
豊田通商株式会社
西川産業株式会社
株式会社ファミリーマート
株式会社ヤマダ電機
■情報通信・マスコミ
株式会社NTTドコモ
株式会社オービック
株式会社ジュビターテレコム(JCOM)

東映アニメーション株式会社
日本放送協会(NHK)
株式会社日立システムズ
富士ソフト株式会社
株式会社北海道新聞社
■その他
アパホテル株式会社
ANAエアポートサービス株式会社
日本航空株式会社(JAL)
株式会社リクルートメディカルキャリア
■進学(大学院)
横浜市立大学
The University of Kent
筑波大学

国際都市学系

■製造業

株式会社IHI
アサヒビール株式会社
株式会社クボタ
株式会社JVCケンウッド
日本製粉株式会社
本田技研工業株式会社
三菱電機株式会社
YKK株式会社
■金融・保険業
オリックス生命保険株式会社
株式会社大和証券グループ本社
野村證券株式会社
みずほフィナンシャルグループ
株式会社横浜銀行

■建設・不動産
旭化成不動産レジデンス株式会社
イオンモール株式会社
株式会社竹中工務店
東急リハパル株式会社
中日本高速道路株式会社
株式会社長谷工コーポレーション
■広告・コンサルティング・専門サービス
株式会社JTBコミュニケーションデザイン
独立行政法人農畜産業振興機構
株式会社野村総合研究所
■公務員・教員
神奈川県教育委員会
神奈川県庁
国土交通省東京航空局
東京都特別区

東京都庁
内閣府沖縄総合事務局
大和市役所
横浜市役所
横浜税関
横浜地方裁判所
■商社・卸売・小売
日鉄住金物産株式会社
株式会社ニトリ
三菱食品株式会社
リコー販売株式会社
■情報通信・マスコミ
新日鉄住金ソリューションズ株式会社
株式会社DMM.com
株式会社富士通エフサス
楽天株式会社

■その他
株式会社ANA Cargo
株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社JTBコーポレートセールス
株式会社JALスカイ
全国農業協同組合連合会
東京モノレール株式会社
東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)
株式会社星野リゾート
横浜商工会議所
RIZAPグループ株式会社
■進学(大学院)
横浜市立大学
千葉大学

経営科学系

■製造業

旭化成株式会社
株式会社アシックス
花王株式会社
カシオ計算機株式会社
株式会社キーエンス
キャノン株式会社
コニカミノルタ株式会社
シチズン時計株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
株式会社バンダイ
パナソニック株式会社
株式会社日立製作所
株式会社ファンケル
富士通株式会社
YKK株式会社

■金融・保険業
SMBC日興証券株式会社
住友生命保険相互会社
株式会社大和証券グループ本社
日本銀行
野村證券株式会社
株式会社三井住友銀行
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社横浜銀行
■建設・不動産
清水建設株式会社
タマホーム株式会社
株式会社長谷工コーポレーション
三井不動産商業マネジメント株式会社
株式会社ルミネ
■広告・コンサルティング・専門サービス
株式会社東急エージェンシー

株式会社博報堂
株式会社読売広告社
■公務員・教員
神奈川県庁
東京都特別区
横浜市交通局
横浜市役所
■商社・卸売・小売
ENEOSグループ株式会社
株式会社ジーユー
日鉄住金物産株式会社
日本たばこ産業株式会社(JT)
株式会社阪急阪神百貨店
株式会社丸井グループ
■情報通信・マスコミ
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
株式会社NTT東日本・南関東

株式会社オービック
ソフトバンク株式会社
西日本電信電話株式会社(NTT西日本)
富士ソフト株式会社
ヤフー株式会社
株式会社ワークスアプリケーションズ
■その他
神奈川中央交通株式会社
独立行政法人国際協力機構(JICA)
株式会社サカタのタネ
東北電力株式会社
日本航空株式会社(JAL)
日本年金機構
■進学(大学院)
横浜市立大学
一橋大学

理学系

■製造業

カシオ計算機株式会社
株式会社資生堂
株式会社タカキベーカー(アンデルセングループ)
第一三共株式会社
東芝テック株式会社
株式会社ドクターシーラボ
パナソニック株式会社
株式会社日立製作所
三菱ケミカル株式会社(三菱化学・三菱樹脂・三菱レイヨン)
■金融・保険業
ブルデンシャル生命保険株式会社

■建設・不動産
株式会社竹中工務店
■広告・コンサルティング・専門サービス
イービーエス株式会社
■公務員・教員
学校法人岩崎学園
川崎市役所
東京都特別区
■商社・卸売・小売
伊藤忠マシントテクノス株式会社
JFE商事株式会社
株式会社ジャパネットたかた

株式会社高島屋
■情報通信業(放送、情報、映像・音声制作)
キャノンITソリューションズ株式会社
日本アイ・ピー・エム株式会社
ハマゴムエイコム株式会社
■その他
株式会社ステップ
バンダイビジュアル株式会社
■進学(大学院)
横浜市立大学
大阪市立大学
大阪大学

鹿児島大学
慶應義塾大学
静岡大学
筑波大学
東京工業大学
東京大学
東京農工大学
東北大学
名古屋大学

横浜市立大学後援会会則

(名称)

第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。

(目的)

第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への支援
- (2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員)

第5条 本会は、次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
- (2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
- (3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）

(役員の設置)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以内
- (2) 監事 2名以内
- 2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。
- 3 理事のうち2名を業務執行理事とする。

(役員の選出)

第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、会員資格を失ったときは退任する。

(役員の任務)

第9条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
- (4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。

(顧問)

第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
- 3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べるができる。

(職員)

第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。
2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の決議事項)

第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。

- (1) 役員の選任
- (2) 事業報告及び決算の承認
- (3) 会則の改正
- (4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項

2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(理事会)

第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。

2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。

(理事会の決議事項)

第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。

2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。

ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。

(会費)

第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。

2 会費の額は、次のとおりとする。

(1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）

(2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあつては20,000円）

3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会則の改正)

第19条 この会則の改正は、総会で行う。

2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則

本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

本会則は、平成22年6月26日から施行する。

附則

本会則は、平成26年7月5日から施行する。

附則

本会則は、平成29年7月1日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp